



「剥がす」現場から、 「守る」現場へ。

これからの鋼構造物補修の“新定番”「水系塗膜剥離工法」

⚠️ 待ったなしの構造物の老朽化と 厳格化する「リスクアセスメント」

建設から50年を迎える橋梁をはじめ、塗り替えを要する鋼構造物全般において、鉛やクロム等を含む旧塗膜の安全な除去が急務です。

安衛法改正により、有害物質を含む作業における化学物質の自律的な管理が義務化。粉塵飛散リスクが高い乾式削り落としや、塩素系溶剤は限界を迎えています。

コンプライアンス
完全対応



💡 いま「水系」が選ばれる3つの理由



1. 職人の命を守る（安全性）

特化則・有機則 非該当

ジクロロメタン等を使用せず、皮膚吸収リスクを低減。消防法上の非危険物に該当するため火災リスクも極めて低く、リスクアセスメントに容易に適合します。



2. 周辺環境を守る（環境対策）

鉛則対応 / クレーム防止

「湿潤状態」のまま掻き落とせるため、有害粉塵の飛散を物理的に遮断します。低VOC・低臭気のため、市街地でも近隣クレームを防ぎます。



3. 施工品質を守る（素地調整力）

性能評価クリア

NETIS登録

土研ガイドライン試験をクリア。有効成分が浸透し、形を保ったまま「膨潤・軟化」させるため、鋼材を傷つけず最適な素地調整面を形成します。

水系剥離工法 成功の「3ステップ」

～有害粉塵を防ぎ、安全・確実に剥がすための標準手順～



メカニズム

有効成分が塗膜の樹脂に浸透。塗膜が成分を吸い込んで膨らみ（膨潤）、素地との密着力が低下して「脆弱な状態」になります。粉塵を出さずに安全に剥がせる大きな理由です。

STEP

1

塗布工程 （標準：0.5～1.0kg/m²）

表面の汚れを除去後、エアレス等で均一に塗布します。

 事前の「試験施工」が重要です。



STEP

2

浸透・養生工程 （一晚程度）

成分が深部まで浸透し、軟化・膨潤するまで待機します。

 長時間湿潤をキープし、塗膜をしっかり膨潤。



STEP

3

掻き落とし工程

湿潤し密着力が低下した塗膜を手工具で除去します。

 焦らず作業でき、形を保ったまま容易に回収可能。

最重要



現場のQ&A（よくあるご質問）

Q. 冬場の施工はどうすれば？

A. 養生時間を長く取る等の工夫が必要です。（5℃以下は要相談）

Q. どんな下地でも使える？

A. 鋼・コンクリ等幅広く使えますが、パッチテスト推奨です。

Q. 剥がした後の塗膜（廃棄物）はどのように処理する？

A. 旧塗膜に鉛等を含む場合「特別管理産業廃棄物」等に該当するため、専門業者へ委託してください。

現場に最適な製品・工法のご相談は、加盟各社へ

下地や塗膜成分によって最適解は異なります。C-WRAが安全なラインナップを提案。詳細はWEBサイトへ。

 Web検索 ▶ C-WRA 水系剥離